

令和5年度 市長と語るまちづくり懇談会（長穂地区）会議録

日 時：令和5年11月7日（火）午後7時00分から午後8時40分まで

場 所：長穂市民センター

テーマ：地域で語るまちづくり

出席者：住みよい長穂をつくる協議会の皆様

周南市長

シティネットワーク推進部（シティネットワーク推進部長、市民の声を聞く課長ほか）

長穂市民センター（所長ほか）

1 懇談会の流れ

- (1) 開会
- (2) 参加者紹介
- (3) 懇談
- (4) 閉会

2 主な意見等

市道長穂市線の道路改良について

【地域】

- 市道長穂市線は、国道315号線から支所・市民センター、この先に消防機庫があるが、道路が何ヵ所か狭く危険なところある。この支所・市民センターは、地域の活動の拠点、地域防災の要として、利用頻度も高い。ほたる祭りや長穂地区の産業文化祭など大きな行事も行っており、地域住民だけでなく他の地区から多くの方が来られる。そうした時に車の離合ができない。消防機庫から緊急自動車が出るときにも非常に危険を伴うため、この機庫の前までの道路の拡幅をぜひお願いしたい。早めにご検討いただければと思う。

支所・市民センター建替の際に住民を交えたワークショップが実施され、いろいろな意見があったが、その中でも、この道は拡幅してほしいと意見が上がっていた。この道が拡幅できて、初めて支所・市民センターが一体として完成すると住民は思っている。ぜひお願いしたい。

【市長】

- 前から、拡幅の要望をいただいている所だと思う。長穂地区では現在、国道315号から駐在所の方に入ってくる市道黒木線、橋の架替を行っている市道長穂向道線の工事を進めている。市としては、この市道を計画どおり完成することが一番だと思っている。それから、市道長穂市線の拡幅については、しっかり協議を進めていきたいと思っている。他の地域の支所・市民センターの状況を考えるとすぐということにはならないが、皆さんの思いは伺った。

農地の活用について

【地域】

- 長穂地区は、圃場整備中であるが最終段階に入り、110ヘクタールが整備される。現在、長穂と蒔地の農事組合法人の皆さんが多くの土地を管理されている。この法人の方々はかなり高齢化が進み、将来を地域の方も不安に思われている。山口県内でも、圃場整備をしたが、耕作者がいない、借地料も入らないという話を聞くことがある。先日の広報と一緒に、今後の農地の活用方針を地域計画として取りまとめるというチラシが入っていた。この計画を取りまとめるのは、市の農林課や農業委員会と土地改良区、土地所有者と思うが、地域の意見を聞きながら、行政がしっかりリードしていただきたい。また、国が言う新しい資本主義には農業部門への投資はあまり聞かれない。農業への投資や補助金等が必要である。しっかり人への投資や補助金の活用などについて市がリードして、長穂地域の要望にも応えていただきたいと思う。市長が、山口県内で長穂の農業は素晴らしいですよと誇れるぐらいの意気込みで、行政にも一緒に取り組んでいただきたい。今までの資本主義では農業は成り立っていかない。農業も新しい資本主義に変えていかないといけない。農業は、行政の力がないと立ち行かない状況になっている。行政に人と補助金をお願いしたい。地域の中でも、今の状況について共通認識が必要だと思っている。力添えをよろしく願います。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- これまで、地域の農業や農地を守っていくために、地域の中心的な農業の担い手となっておられる農業法人の経営の安定化を支援することや新規就農者などの新たな担い手を確保していくこと、意欲や力のある農業者に農地を集めていくこと、そして、効率的に生産ができるように農地を大きい区画に整備することなど、長穂地区でも地域の農業関係者の皆さんと様々な取組を進めてきた。
農業者の皆さんの高齢化や後継者不足が、これからも進んでいく中で、次の世代に引き継いでいくことは、難しい問題になっている。一番の支援は、人の支援なのかもしれない。整備された農地を守っていかないといけない。長穂地域の皆さんも頑張っていただかないといけなし、市と地域の両方が力を出し合わないといけなし。長穂地区は、農地も広いし、地の利もいいしモデル地区だと思っている。自分の土地は、自分が守る方法を地域でも考えただきながら、行政との協働をお願いしたい。一緒に頑張りましょう。市では、新たに農業を始める方を支援する制度もあるので、少し紹介させていただく。
- 地域の農業や農地を、次の世代に着実に引き継いでいくため、新たな取組として10年後の地域の農業や、農地のありたい姿を明らかにした「地域計画」というものを策定することが法律で義務づけられた。周知を図るために長穂地区では11月号の広報配布にあわせて、「農地を次世代に引き継ぐために」というチラシを全戸配布した。本市でも17地区でこの地域計画を策定する。準備の整った地域から、順次、農家の方々や農業委員会、JAなどの関係機関が一体となって、地域農業・農地の将来について話し合いを行うこととしている。長穂地区でも、座談会を3回予定して今後農家の皆さんと話を進める予定としている。
この計画は、10年後も守っていく農地を決めて、1筆ごとに誰が何を耕作するのかなどを定めるものになるため、地域にとって重要な計画になることから、計画を策定していく

過程を地域の広報紙などで、皆さまにも、しっかりとお知らせしていくこととしている。

市では、農業委員会等と連携し、営農に適した農地の斡旋や機械、設備の導入やリースの支援、空き家情報バンク等による遊休空き家の斡旋などを行い、就農の準備の支援を行っている。

旧長穂中学校跡地の活用について

【地域】

- 旧長穂中学校跡地は、現在空き地としてほとんど活用されておらず、年に一度、ほたる祭りの駐車場に利用している。以前、市の方から太陽光発電設備の設置について、地元の説明があったが、地元にも何もメリットが無い。隣にある亀山からの景観が、太陽光発電のパネルがつけば非常に悪くなる。また、旧長穂中学校跡地までの道路は非常に狭いなど、いろいろな問題があるということで地元としてはお断りをしている。

跡地そばの亀山は、夢プランに位置づけ、地域で竹を伐採して、遊歩道も含めて整備している。また、桜の木を30本程度植え、春には美しい桜の花も咲くという素晴らしい公園に整備されている。近々、東屋を建設する予定である。

この亀山と旧長穂中学校の跡地をコラボさせて有効利用できないか、例えば、デイキャンプなどの施設を造り、バーベキューや飯ごう炊さん、ピザを作る、夏にはそうめん流しをする、また亀山にもカブトムシ、クワガタがいるので採取できるとか、空気のきれいなところなので、秋冬には天体観察など、いろいろなアイデアが出ると思う。そこに子ども達や家族が集まれる場所として有効活用したい。市に一方的にお願いするのではなく、地元としてもいろいろアイデアを出しながら一緒にやっていきたいので、空地の活用をお願いしたい。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 亀山の東屋の建設にも取り組まれているし、草刈や竹林の伐採など整備もされて見晴らしのいいところだと思う。持続可能な地域社会、地域にするために欠かせないことで、本当に素晴らしいことだと思う。

長穂中学校跡地は、平成13年3月末をもって学校を廃校し、旧校舍等解体後、長い間、空き地のままとなっている。これまで市では当該市有地の有効活用を図るため、地元のご意見も伺いながら、売却や貸付けに向けた取組を進めてきたところだが、具体的な活用に至っていない。こうした中、現在、太陽光発電事業者より、当該市有地を太陽光発電施設の設置用地として借り受けたいとの申出があり、地元にもご相談しているところである。当該土地の活用について、他のご意見等もあればお寄せいただければと思う。

旧翔北中学校の活用について

【地域】

- 旧翔北中学校は平成24年4月に休校となり、その後、大道理、大向、長穂のコミュニティの関係者で翔北中学校を有効活用する地域協議会を開催して平成24年9月20日付で有効活用を求める要望書を市に提出した。地域に雇用、移住が生まれること、地域の環境美観が損なわれないことを要望した。平成28年4月から市は、現在の周南クリエイティブセ

ンターに無償貸与し、その事業安定化のために約4千万円の補助金が交付されている。

しかし、事業者の実態が見えてこない。雇用や環境の整備も十分にできていない。ほたる祭りで、グラウンドを駐車場として借用使用する際には、地域の皆さんにグラウンドの草刈をお願いして使用していた。現在は、グラウンドは山口県産業ドローン協会が使用され、定期的に草刈りをしておられると承知している。当初の計画通りの事業が進んでいないと思われるため、今後検証していただく必要があると思っている。あと契約が2年あるがこのままの継続では地域の皆さんはおそらく納得されないと思う。地域としては、今後ほたる祭り際にはグラウンドを駐車場として使用させていただきたい。もしも、これから何か造るのであれば、当初の要望内容である地域の環境美観が損なわれないこと、危険な産業がないこと、可能な限り地域の雇用、移住が生まれること等が現在も変わらない思いである。

- この前、旧翔北中で開催されたドローンの講習会に参加したが、草がいっぱいで、どうにかしないといけないと思って今後の活用について要望を挙げた。
- どのような団体がどのように、いつまで使われるのか情報が欲しい。長穂地区体育館も利用が増えているので、使用していないのであれば体育館だけでも利用できないかと思う。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 現在の旧翔北中学校の賃貸借契約の状況は、株式会社周南クリエイティブセンターと平成27年度に10年間の市有財産使用賃貸借契約を締結し、企業の商品開発ブランディング、印刷物や情報誌の製作、ホームページの製作や保守管理、WEBクリエイターの育成などに加え、フリーペーパーの製作やオフィスの誘致などに取り組まれておられると聞いている。

こうした中、市内の食品製造・販売事業者も事業を開始され、製造拠点としての活用、地産地消に寄与されておられる。また、県や市と防災協定を結ぶ団体が、活動拠点としてグラウンド及び体育館を利用されるなど、新たな動きも始まっており、施設の利活用が図られているところもあると考えている。

また、体育館の利用については、旧翔北中学校の施設全体を現在の事業者に一括して貸し出しているの、一般開放の取扱いは行っていないところである。現在の事業者との契約期間は令和8年3月末日までである。まずは、現在の事業者と協議を行うこととなるが、契約期間満了後の活用方法などについては、今後、検討を行ってまいりたいと考えている。また、皆さんも知恵を貸してほしい。

今後、市民へ開放とか企業誘致の話も出てくるであろうが、市も企業誘致の促進を行っているの、その中の一つとしても考えていきたい。もし、事業用地として活用できる場合には市や、県のホームページで情報提供に努めていきたいと思う。今後、契約満了にどういった活用がいいのか問題はしっかりと捉えている。

旧長穂児童園の活用について

【地域】

- 旧長穂児童園の施設は、周りに草も生え、子ども達が見るたびに悲しい気持ちになっている。借りるにも浄化槽の管理が10万円近くかかり、高すぎて誰も借りられない。貸出し

の見込みがないのであれば、手の届くくらいの金額で地域の人で使用できないかと思う。旧翔北中は借りられるのに児童園は借りられない。児童園の部屋の中も仕切りを取れば、ワンフロアになって広く、ワークショップもできるし、イベントで利用できれば卒園者も懐かしい気持ちで集まりやすいのではないかと思う。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 旧長穂児童園は、令和2年3月に閉園となり、その後活用されてないってことで私も気持ちはよくわかる。比較的建物が新しいので、地元のいくつかの団体から使用したい旨の申し出があったが、光熱水費や浄化槽などの維持管理費の負担が支障となり、貸付には至らないのが現在の状況である。

手の届くくらいの金額で地域の人で使用できないかというご提案だが、貸付にあたっての条件は旧長穂児童園に限ったものではなく、公共施設廃止後、他の施設に転用せず、そのまま管理している建物や土地は、市全体で同様の取扱いとなっている。旧児童園横にある旧長穂小学校の体育館については、現在、地域の体育館として使用していただいているなど、活用している施設もある。

旧長穂児童園についても、この施設のように住民の皆様にご利用いただければと思うが、財産の分類、性格上、どうしてもこのような使用は叶わない。現時点において、旧児童園をご使用いただくためには、貸付契約を締結の上、光熱水費、また浄化槽の維持管理費等をご負担いただくこととなる。ここだけの問題でなく、他にも多くのある施設と合わせたルールでないといけないというのが、大変申し訳ないが答えになってしまう。

【地域】

- 合併浄化槽の場合は、槽の大きさで人数が固定されて料金計算されてしまうが、公共下水が通っている場合は、使用人数に応じて料金が計算される。ぜひ、この辺りを旧児童園でも、使用人数に応じた料金になるよう検討してほしいし、また浄化槽の施設と公共下水の施設で差が生じるどころの扱いを検討してほしい。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 使用料の部分は、いろいろな条件で減免となることもあるが、光熱水費については実費になると思う。旧児童園は子どもさんがたくさんおられた施設なので、浄化槽が大きいのが、使用する人数に応じて、減額するという制度にはなっていない。
- なかなか難しい問題であるが、持ち帰りたい。

過疎対策について

【地域】

- 長穂の問題は過疎対策と少子高齢化の問題があるが、長穂は若い人が出ていってしまう。働くところがない、住むところもあまりない。働くところができるよう、企業の誘致をしてもらって働ける場所を作ってほしい。若い人に来てもらえるよう、長穂に市営住宅を建設してほしい。市内の市営住宅を立て替えるのであれば、長穂に造ってほしい。

長穂は道が良く、通勤もできると思う。若い人に来てもらい、農業も手伝ってもらえた

ら、お米や野菜も差し上げられるし畑を作る指導もしたい。

先ほど、旧翔北中学校の話があったが、自分は老人ホームになるのではと思っていた。あの辺りが老人ホームになれば、私達も利用できるし、働くところにもなる。須々万には、食べるところやお店があるが、長穂には少ない。国道があり結構車が通るので、小規模な道の駅など食べる所があれば、人も集まるのではと思う。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

○ 大きな問題である。市営住宅に関して言えば、市内の人口が減ってきているので、古くなった市営住宅は壊しながら、減らしていく方向にある。市の住宅の長寿命化も考えているが、現在のところ、市営住宅を長穂に造る予定は申し訳ないが現在のところない。逆に、長穂には売買したり、貸せる空き家がたくさんあると思う。うまくマッチングがすれば、若い人達がここに住もうという人があるかもしれない。中山間地域の移住については、居住や起業を応援する制度を作っている。市も少子高齢化がどれだけ厳しいかとか、人口が減ることがどんなに大変かはよくわかっているので、もっと踏み込んだところの話合いが必要だろうと思う。

○ 中山間地域で該当する支援制度をまとめたものをお手元にお配りしている。周南市の中山間地域の移住を促進するため、100万円を上限に空き家の改修や修繕にお使いいただける補助金や、地域にある空き家や空き店舗を活用して起業するための建物改修のための補助金もある。こちらも100万円を上限に補助している。

その他に里の案内人や空き家バンクの登録制度も進めている。新規就農者への支援等もある。市内のそれぞれの課が連携して移住定住を進めている。地域の方で、受入れ態勢が整っていると、移住者にとって心強いので、補助金等を活用しながら皆さんと一緒に進めていければと考えている。

企業誘致についても、産業の活性化は市全体の地域の振興につながるもので、中山間地域に事業用地を求める事業者があったら、紹介してほしい。

○ 長穂が選ばれる地域にならないといけないと思う。私は市長として周南市が選ばれる町になるように、今頑張っている。その周南市の中で選ばれる地域になる。ここに来たら、こんなにいい人がこんなにたくさん居るのだからから、ここに引き寄せる取組を地域で行っていただきたいし、それを一緒にやってかないといけないと思う。

医療対策について

【地域】

○ 長穂地区には開業医がない。開業医さんが来てもらえるのが一番いいが、来てもらえないなら、定期的に診療所みたいなところに来てもらえるような医者があると良い。高齢になると医者にかかることが多くなるので、何か施策がないかと思っている。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

○ 不安はよくわかる。去年の春、鹿野診療所に長沼先生が来てくださった。その先生が来られて、鹿野診療所でリモート診療もやっているし、少し地域医療の形が変わりつつある。リモート診療は、パソコンのタブレットで写しながら、看護師と一緒にリモートで

診察をしたり、それから看護師が訪問する診療方法も行っている。郵便局も一緒になって、郵便局の中でその診療できるように考えてくださっている。今までのように病院に行くことから形を変えた地域医療というものを模索しているところである。どのような形が一番いいか、皆さんの希望や意見も支所に届けてほしい。皮膚科や眼科、整形外科とか、どうしても直接診てもらわなければいけないところもあるので、そのための生活交通の確保やバスやタクシーの割引券など、市でもいろいろと用意しているので、それらを利用していただき病院にかかりながら、今後の地域医療でできることを進めていきたいと思う。

高齢者対策について

【地域】

- 長穂全体で高齢化が進み、草刈りなど地域の環境整備が困難になりつつある。例に挙げると、地域の自治会館の周辺は斜面が急で非常に危険である。法面をセメントの吹き付けなど管理しやすいように対応していかないといけない。圃場整備してない箇所はかなり荒れている。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 皆さんの不安はよくわかる。道路など、地域の皆さんで管理できない場合は市ともよく協議させていただいて、状況に応じて市でも対応していかないといけないと考えている。適切な維持管理をしていくので、支所のほうにも相談してほしい。
- 今後、いろいろな課題があると思うが、お話しいただいた自治会館については、市の管理地でないため、市で整備することはできないが、自治会集会所に係る用地の整備に対して補助を行っている。セメントの吹き付けや防草シートの敷設にも利用できるため、活用について検討してほしい。

【地域】

- 認知症の方が増えてきている。認知症の方がつけるキーホルダーやリボンがあってほしい。一人で困っておられる時に助けられる。例えば、病院などで出会った時には、家族の方に認知症の度合いを確認できるが、外で出会った時には認知症かなと思って本人には聞きづらい。最初からキーホルダーやリボンなどがあれば、認知症ということがわかるので、相手に合わせてお話をしてあげることもできるし、家族の方とも話がしやすいし共感できると思う。

【市長（※関係部署の回答も含む。）】

- 私自身も、認知症の介護の経験があるのでご心配されていることはよく理解できる。認知症だけでなく他に障害がある人に対して援助できるマークがある。活用を検討してほしい。
- 認知症に限定していないが、県全体で取り組んでいるヘルプマークというものがあり、本人の意思を尊重したうえで、名前や連絡先など自身が必要とする支援内容などを記入することもできる。市障害者支援課や各総合支所で申し込みいただければ、無料でお渡ししている。実際に、認知症の方でご本人の意思により、「どこどこのスーパーに買い物に行き

たい」など、その手助けをしてほしいとメモしたヘルプカードをカバンにつけて、スーパーの店員の方や地域の方からサポートを受けていらっしゃる方もいる。認知症に限らず、今後も、この「ヘルプマーク」の周知や活用を進めていく。認知症サポーター養成講座等により、認知症の方の困りごとに気づける市民を増やしていき、認知症の方にやさしいまちづくりに取り組んでいる。引き続き、地域の見守りのご協力をお願いしたい。

【地域】

- 高齢者が運転中に事故をしたり、怖い思いをして免許証を返納したと聞く。バスやタクシーの助成券について、もっと周知してほしい。

【市長】

- 免許を返納した75歳以上の人に、バスタクシのチケットを48枚交付している。65歳から74歳までは、免許を返した人、免許を持っていない人には、バス、タクシーチケットを交付している。チケットを市に取りに行くのも大変だと聞いている。いろいろな課題もあるので来年度からは、もっと使いやすいように現在、検討を進めている。正式に決定したら、皆さんにお知らせする。

【地域】

- ほたる号の運行も、地域の70歳代の方が運転手となり運行できているが、この先に高齢化が進むと心配である。

【市長】

- 地域のコミュニティ交通は、どの地域も運転手の確保が大変と聞いている。今後の自動運転ができる社会に期待し、将来、社会が変われば多少解決できることもあるかもしれないが、それまでは、地域の中で助け合いができる仕組みを育てていく必要もある。市でもしっかり受け止めて移動手段の確保に努める。

準用河川の管理について

【地域】

- 今年6月30日を大雨が降り、7月1日に黒木川と筋地川が氾濫して、田んぼがダムのようなになった。皆が怖い思いをされている。令和5年度も冠水している。河川の浚渫をぜひお願いしたい。今、河川改修もしていただいて、向陽橋も改修にあわせて施工され、今後頭首工もその幅にあわせて更新されると説明があった。引き続きよろしくお願ひしたいと思う。

7月1日の豪雨ではがけ崩れが発生し、1軒が孤立した。市に迅速に対応していただき、すぐに孤立が解消された。感謝を申し上げたい。

【市長】

- 準用河川については、定期的な河川パトロールの実施や地域住民の要望をお聞きしながら、土砂の堆積箇所を確認している。黒木川、筋地川についても計画的に浚渫を実施しており、今年度も取水期が終わったことから、10月に浚渫工事が完了した。今後も、計画的に河川の浚渫を実施し、来年度も予定している。引き続き、浸水被害の軽減を図っていく。

市民センターの管理について

【地域】

- 長穂市民センターは、いいものを造ってもらって地域で非常に活用されているが、野外広場はトイレと水道がない。広場で週に2、3回グラウンドゴルフをお年寄りがやられているが、わざわざ市民センターまで来られる。外には手を洗う所や、トイレがあれば非常に便利である。またいろいろなイベントが始まりつつある。ほたる祭りとかは、トイレも使うし、水もホースでつないで取るのが困難な状況である。トイレと水があったら非常に便利である。
- 長穂地区は、周辺地区にお店などがなく地区外から作業に来られた方もトイレに困られている。作業中にトイレがないことで、問題が発生したこともある。長穂に限らずこういう地域は、屋外にもトイレを造るべきだと思う。地区に使いやすいトイレがないのは不便である。

【市長】

- お気持ちはよくわかるが、他の地域の市民センターを見ているとまだまだ古い施設もある。この度は、ご意見として伺った。

教育について

【地域】

- 専門教科の先生が須々万中学校にいない。数学の先生が技術を教えたり、家庭科も教えたり、技術家庭科や体育の専門の先生がいらっしゃらないと聞く。以前、大阪に住んでいた時は、どの教科も専門の先生がいらっしゃって、教科書にはないことや専門的な知識も教えてくださった。例えば体育のマット運動は、先生がバク転を見せてくださり、家庭科では、教科書に載っていないマフラーを編んでくださり、興味がなかったことも好きになったりする生徒いる。中学校では専門の先生がいないため、地域連携の一環で地域から授業の応援に行ったりしているが、中にはそれが嫌だなどと思う生徒さんもいるようである。教科の数ほどの先生は学校に居るべきだと思う。

【市長】

- すべての教科に専門の先生がいるべきであるというご意見は、子ども達の立場に立てばごもっともであると感じている。教育委員会によると、現在、学校に配置される先生の人数は、学級の数によって決まっている。したがって、子どもの人数が少ない学校では配置される先生の人数がどうしても少なくなる。その結果、状況によっては複数の教科を担当しなければならない先生も必要になる。また、1週間に行う授業の数も教科によって決め

られており、教科によって異なる。どの学校においても、すべての教科のバランスを見て授業担当者を決め、授業を進めているのが現状ということである。

須々万中学校においても、すべての授業が円滑に進むよう先生方が協力し、子ども達のために熱心に取り組んでおられる。ご意見をいただいたように、先生の方数が多く、すべての教科に専門の先生が配置され、先生方がゆとりをもって子ども達と向き合えることは子ども達にとってもよいことだと私も思うが、教員不足のニュースも耳にするこの頃だが、配置される先生の数が少しでも増えるよう、市の教育委員会でも県の教育委員会に要望を出している。周南市内のすべての学校において、先生が子ども達にしっかりと向き合える環境となるよう、市の教育委員会も今後も努めるとのことである。先生の方数が足りていないことも影響があるであろう。できる限り頑張るよう教育委員会にも伝える。

市に対する意見について

【地域】

- 人口が減少している。山口県が160万人だったのが130万人、周南市も合併して20年だが、2万人減っている。長穂も1200人ぐらいだったが、それが600人を割っている。65歳以上は周南市で約3割くらいだが長穂は半分を超えている。地域では、団塊の世代が活動を中心になっているが、これが5年10年したら半分以下になるかもしれない。ゴルフ場も無くなっている。どんどん人口が減っていくわけで、問題は税収減になっていく。子どもや孫に負担をさせたくないということで、私達の年代からすれば、孫の時代まできちんと守っていかなければと思っている、人口がどんどん減って、須々万地区でも運動会がなくなった。各地域の文化活動のほとんどが縮小し、なくなってしまう。だから公共施設の余剰が生まれている。学校もそうである。

それと空き家の対策を具体的にお願ひしたい。無縁墓地の問題もある。市営墓地でもお墓を継ぐ人がいない墓地がどんどん出てくる。墓石だけでも撤去できるシステムを作っておかないと今後、連絡がつかないことも、次々に発生する。長穂地区でも、墓地の更新を行ったが、長い月日がかかり大変な思いをして進めた。

その他に、太陽光のパネルが、戸田、湯野、熊毛などに多くなっている。以前は、借地であったが、今は、業者が土地を買って設置している。20年30年経って、業者の社名もどんどん変わって、所有を追っかけていくことができなくなる。そのまま、放置される可能性も高い。

施設で言えば、昔、市民館があったが、以前は市民館の予約を入れるのが大変であった。昭和57年に文化会館ができた後は稼働率が一気に下がった。合併後は、熊毛や新南陽など各地域の施設が使えることから、大きな行事も分散された。公共施設は余剰があると思う。施設の統廃合と処分を行っていかないといけない。

市の職員や議員についても、人口減少に比例させて減らしていかなければならないと思う。

以前のように大風呂敷ではできなくなる。団塊の世代がサークルなどで、活躍されているが、もう10年くらいしたら、これらもなくなるであろう。施設も共用を図り、地域を超えて皆が使えるようにしてほしい。今後の市政の参考にしてほしい。

- 公立大学は、志願者も多く、生徒が増え、いい生徒が集まると思う。創立時は、山口県東部に大学がないことから、若者のために、地域のために大学が創設された。50年が経過している。校舎も年月が経ち、建て替えや改修が必要になってくるが、200億円以上の金額が今後必要になってくるであろう。次世代の負担を減らしたい思いであるが、この費用を周南市のみが背負うのではなく、県東部の自治体が運営できるような働きかけをしてほしい。公立化したから、今後毎年15億円から20億円の基金を積む計算になる。次世代への負担は軽減してほしい。

【市長】

- 公立化した周南公立大学は、昭和47年に徳山大学として創設され51年経っている。令和5年度入試で、一般選抜志願倍率が全国の国公立大学でトップである。全国の2000人未満の大学で、地域貢献度がナンバーワンの大学になった。この2年間で大きな変革である。現在、新たなキャンパスを建設中で30億円くらいだが、大学がこれまで積み立てていた46億円のうち30億円を市が預かって建設している。これまで税金の投入はされてない。世界情勢により建築資材の高騰で建設費が足りなくなったが、市が起債を行い大学に貸し付けている。このお金も返ってくる予定である。

全国にはいろいろな市町村が一緒になって設立する例もあるが、周南市だけでしっかりやっけていけることから周南公立大学という名前を付けている。大学側も建替えなど将来を見据えて積み立てを行うなど計画もつくっている。学生も増え、いい状況で走り出している。

【地域】

- 地域の人づくりに対してお金をかけていただきたいと考えている。長穂地区は団塊の世代の方がコミュニティの活動や地域の祭りごと等の中心になって行っていた。若い世代が、地域の中ではお客様のように感じている。自分達は、地域の中で先輩方の姿を見ながら先輩方について行けるように一緒に活動しているつもりである。今、ふと振り返ると後ろに若い世代が誰もいないように感じる。地域のイベント等の企画をしているが、参加するのは団塊の世代の皆さんがメインで、若い世代や子どもの参加が少ない。子ども達と地域を結ぶイベントを行ってもなかなか思いが伝わらない状況である。子どもの習い事や、自分達の娯楽が中心である。田舎なのに核家族のような考え方になりつつある。地域のことは、親の世代に任せておけばいいという考えになりつつある。これらの課題を市と一緒に考えていきたいと思っている。世代の溝を感じている。

【市長】

- これからの地域を創っていく若い世代に団塊の世代の皆さんが、知恵やネットワークや現在ある地域の財産をどうやって次に繋いでいくか、地域皆で考えないといけない。持続可能な社会はSDGsであり、皆で取り組まないと地域を守っていくことは厳しくなる。団塊の世代に甘えていたところがあるのであれば、まず、皆で声を掛け合いながら話し合うことが必要になってくる。人づくりが一番中心になると思う。その集合体が家族であったり、自治会であったり、地域になり、それが市になり、県になっていく。私も、声を掛け合うことを思っているがなかなかうまくいかないこともある。諦めないで、声を掛け合

い話すことが大切だと思う。地域の女性の力も大切である。

多くの地域の声は、市に届いている。長穂地域は、地域の皆が自身で地域を盛り上げていくことができる地域であると思っている。結束も素晴らしい。地域で話し合いその中で市に要望等あれば、一緒に取り組んでいきたいと思っている。一緒に頑張りましょう。